

【計画】6-3. 熱中症発生要因の分析と熱中症予防行動の検討

【分野:健康、対象地域:福岡市(九州・沖縄地域全域)】

■ 目的

- 都市化の進展によるヒートアイランド現象と気候変動による気温上昇
→熱中症の増加
- 冷夏やWBGTが低い時期にも熱中症搬送者数が発生
→既存の予防指標(気温、WBGT^{注)})だけでは予防行動がとれない

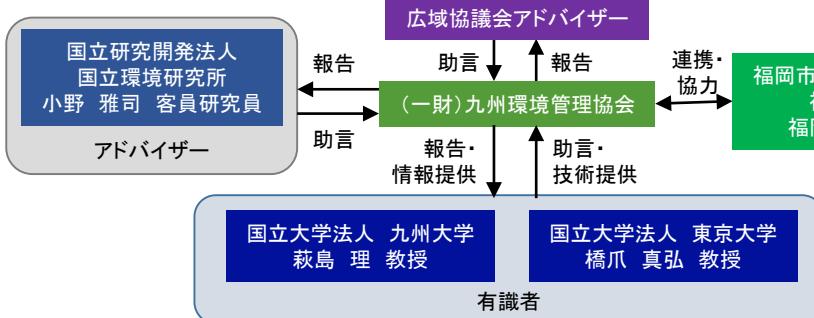


福岡市をモデルとして熱中症の発生要因を解析し、将来の気候変動影響を加味して適応策及び注意喚起の方法を検討

■ 調査計画

- 基礎データの収集・整理、都市気温シミュレーションモデルの構築、熱中症発生要因解析(平成29年度)
- 熱環境の現地調査、シミュレーションモデルによる将来気温予測(平成30年度)
- 適応策の検討、シミュレーションモデルによる適応策の効果検証、リスク評価、啓発・注意喚起のあり方検討(平成31年度)

■ 実施体制



注)WBGTとは

- Wet-bulb Globe Temperature(湿球黒球温度)の略称。熱中症の予防を目的としてアメリカで提案された指標であり、国内では「暑さ指数」とも呼ばれている。
- 人体と外気との熱のやりとり(熱収支)に着目した指標であり、人体の熱収支に与える影響の大きな①湿度、②日射・輻射(ふくしゃ)など周辺の熱環境、③気温の3つを取り入れた指標である。

【参考資料】環境省 熱中症予防情報サイト
<http://www.wbgt.env.go.jp/wbgt.php>



【出典】福岡市 熱中症情報
<http://heatstroke.city.fukuoka.lg.jp/>